

高社研地理部会専門委員会資料

部会長

第4回地理部会資料集編集委員会

平成30年度活動計画において、部会の新教育課程への対応の一環として有志による「資料集」の編集、作成を構想いたしました。

いよいよ、各校においても新教育課程実施準備が進んでいると思います。「埼玉の地理」を生徒さんたちにより理解してもらうために、有志編集委員会設立の具体的な活動を提起させていただきます。

先生方の教科指導・教材研究の一端を集め、教員同士で共有、生徒、保護者、県民のみなさまへ生涯学習の材料として提示できるようなものにできればと思っております。なにとぞ、先生方のお知恵とお力を集め、よいものを社会へ還元したいと思いますので、どうか、お力添えください。

1. これまでの経緯

1. 資料集編集の目的

本県高校社会科研究会地理部会教員の実践や研修、研究を集め、生徒への教科指導上の資料とし、また、広く教員の研修資料として活用するとともに、県職員としての高校教員の研究や教育実践を高校生以外の県民へも還元する。

2. 資料集編集の方針

研究会員の各勤務地域の地物や史料に関する情報や会員の研修、研究を平易にまとめ、中学生以上の県民の知的な興味に答えられる記述とする。その際、地図、地形図を用い、会員の研修、研究成果も加えることのできる編集とする。編集については有志による編集委員会を中心とし、会員の執筆原稿を集め、編集することとする。

3. 編集委員会の募集、設立について

編集委員会は会員・元会員から有志委員を募集し、委員をはじめとする会員の原稿を集め、編集する。

出版に際しては編集委員会で業者等の選定を行い、交渉、作業をおこなう。原稿収集、編集については委員間のメールでの通信により進め、出張等の手当ては行わない。

4. 費用について

本来、「研究成果刊行」の予算を用いるところであるが、予算縮小の折、販売による頒布に頼ることとし、それが可能な業者を委員会により選定し交渉を進める。

5. これまでの日程（実施済）

- | | |
|-----------|---------------------------------------|
| 2019年1月 | 編集委員募集を部会専門委員会にて審議。委員・執筆者募集及び業者選定を開始。 |
| 2019年2月 | 第3学期研究会にて委員、執筆者の募集を行う。 |
| 2019年2月 | 高社研理事会で資料集作成について報告。 |
| 2019年3月 | <u>内容の検討</u> 。編集委員・執筆者の決定。執筆依頼。（進行中） |
| 2019年3月以降 | 原稿執筆（開始済）。（秩父①・本庄・越谷①は済） |

2. 当面の日程（今のところの予定＝想定内ですが遅れていますので、ずれていきます。）

- | | |
|----------|---|
| 2019年末以降 | 原稿締切・納入。 出版業者選定（未実施・公開方法の検討）。 後ろ倒し |
| 2020年 | 原稿作成 今ココ |
| 2020年末 | 校正・出版 |
| 2020年度末 | 刊行 |

3. これまでの構想 ＜内容（案・検討中）について＞

①全県立高校周辺または県内全駅周辺の巡検ガイド

⇒全高校、全駅は作業が膨大になるので、まず県内100地区を定め、巡検地点の吟味（予察・紙上を含む）とコースの選定を開始する。＜別紙＞＝年明け（3学期専門委員会）目途？

②これまで（21世紀）の地理部会の巡検コースガイド

⇒管外研修、隣接都県での巡検（今夏季休業中の公開巡検も）を含め、これから「研究集録」の記録等を集めこれを元に、実践報告的にまとめていく。

③巡検コースガイドを活用したアクティブラーニング例・④地理部会会員の研究、研究報告、記事

⇒各校の校外行事や修学旅行などの情報も含め今後情報募集、執筆依頼。

4. 今回の提案 <内容・お願いする先生方について>

- (1) <章立て(例)>について、すべてを完全に網羅することは各種専門書もあり、膨大な作業量となる恐れがあるので、地域のコース紹介を中心とし、その他項目はページ数を限って、小項目に触れ、まとめる形としたい。
- (2) 今回の『『コロナ禍』に学ぶ教材集』や、深谷の斎藤先生が依頼されている「深谷学」の実践も記事として取り入れたい。アレンジを考えています。皆様のお知恵もいただきたいです。
- (3) 執筆・編集をお願いする先生方は、『『コロナ禍』に学ぶ教材集』にご協力いただいた皆さんを中心としてご協力を求める。
- (4) <章立て>とお願いする先生の分担は以下の提案とし、別紙スプレッドシートを地理部会のclassroomへアップし、その上での作業をお願いする(ページ数はエクセル資料の各項目の数字です。増ページ大歓迎)。まさにコロナ禍下のテレワークにふさわしい企画だと思っています。

(5) 今回は先生方のお名前を入れさせていただきました(お忙しい中とは思いますが、各地域・項目に詳しいのではないかとこの狩野の見立てです)。担当者空欄< >の記事をお引き受けいただける先生を募ります。これらのテーマについて、「かつて勉強しました」若しくは「勉強したい」という元気ある先生にお願いします。特に、女性の先生のお力添えをいただきたいです(元々少数なので皆様のお声がけをお願いします)。

<章立て(改訂版)・担当者案(敬称略)>

0. はじめに

0. 1 役員挨拶<会長・部会長・副部会長>

0. 2 本書の使い方<狩野>

0. 3 巡検とは<狩野>

(地理学者、学生の巡検 大人の社会科見学との違い、高校地理教員の巡検)

0. 4 埼玉の地理< >

(地学的見地、歴史的見地、自然への人々の働きかけ、社会的見地)

1. 地域別巡検コース紹介

1. 1 秩父地区<竹田・近藤・(新井)・ >

1. 1. 1 ~ 1 1

1. 2 北部地区<栗原・斎藤・新井・若林・ >

1. 2. 1 ~ 1 2

1. 3 西部地区

<加藤・森山・古川・大野・加藤(松山)・荒屋敷・(新井)・ >

1. 3. 1 ~ 3 1

1. 4 東部地区

<澤田・武士田・澤岡・(狩野)・ >

1. 4. 1 ~ 2 6

1. 5 南部地区

<澤岡・貴志・文田・武士田・荒屋敷・(狩野)・ >

1. 5. 1 ~ 2 0

2. 巡検×アクティブラーニング< >

(巡検とアクティブラーニング、実践例「未来を拓く学びプロジェクト」での例・高社研巡検での例)・実践案)

3. 県境を越えて< >

(隣接都県への巡検<高社研のもの>、実践例<各校での>、

コース紹介<先生方のアイデア>、

校外学習<各校の例>、

校外ボランティア・修学旅行<各校の例>

・海外派遣<浦高とか?>

・個人の实践<教育局の派遣、報告できる個人旅行…>)

4. 巡検に役立つ情報

4. 1 地形図< >

(国土地理院地形図、地理院地図、国交省の各種情報サービス)

4. 2 各種地図サービス<澤岡>

(google 各サービス、今昔マップ・mandala・

Kashmir、その他各種電子地図)

4. 3 統計関連

4. 4 各種アーカイブサービス

(国会図書館、報道機関、博物館等)

5. 地理教育と巡検< >

5. 1 学習活動と巡検< >

(巡検の学校教育上の役割、学習指導要領と巡検、ICT活用と巡検、この本の巡検先の学習指導要領上の位置)

5. 2 他社会系教科との関連< >

(歴史地理学の存在、地域社会・地域経済・観光、不動産・都市計画、公衆衛生、環境教育やSGDs教育など社会問題解決)⇐「コロナ禍」問題集、「深谷学」の記事化

5. 3 他自然科学系教科との関連<森山>

5. 4 生徒の体験と認識拡張の上での地理教育< >

6. さいごに<狩野>

(生徒諸君へ、地理以外の社会系教科の先生方へ、学校の外の方々へ)

7. 参考文献・謝辞・執筆者紹介

<ご意見ご要望>

<ページの作り>＝編集方針

- ・0章はあいさつ文等の記事

- ・1章はコースを入れた地形図とその解説ページ
地形図半ページとのこり1ページ半程度の見開き
で1地域を取り上げる＝これだけで200ページ
になる。

- ・2章は「未来を拓く」の各教材資料などをまと
めることになると思います。

- ・3章は移動距離の大きい巡検記録なので、地図
の量も多くなると思います。1項目のページが増
えると思います。

- ・4章は情報紹介、5章は資料を図示しながらの
学術論文調でいいのではないかと思います。

- ・6章は先生方が伝えたいこと、思いのたけをお
伝えいただくという体でいいと思います。

・地区のパートや各章が終わるところでインター
ミッションとして「コラム」などが入れれば読み物
としても面白いのではないかと考えています。

「コラムの例」

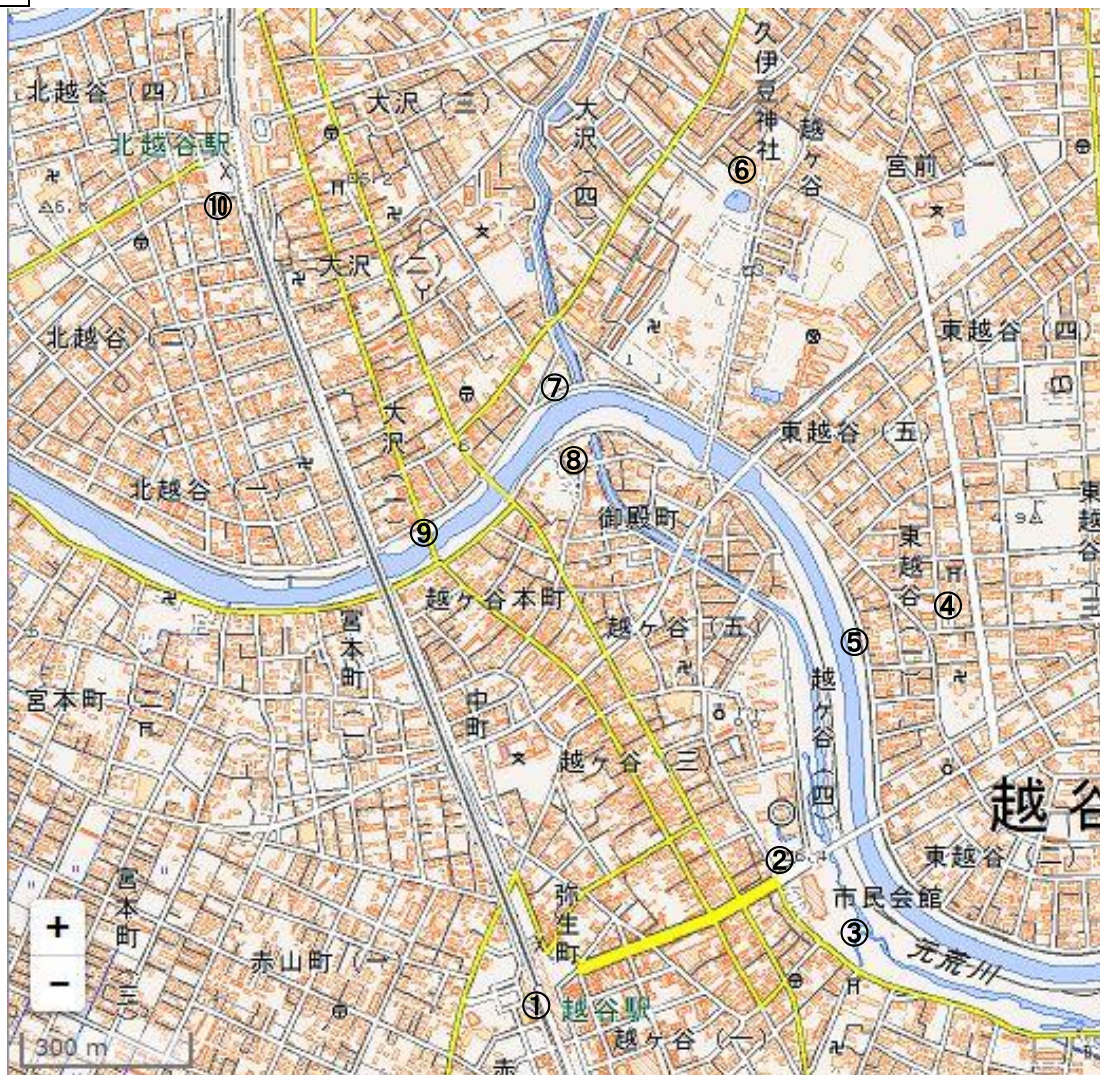
地形図記号など地図の読み方・県内偉人の足跡・
巡検先で聞いた興味深い話題・埼玉の意外な＊
＊・県外との関係・埼玉の将来・埼玉の悩み・埼
玉の高校生・埼玉の各種産業・県民皆が知ってい
る埼玉の名物 etc…前回資料集（「2000年代埼
玉の地理」）執筆後の各テーマについての変化も…

※書きぶりは先生方のものを極力生かし、「ですま
す調」がいいかなと考えています。「あれも書きた
いこれも書きたい」とページ数が増えることに
ついては大歓迎です。また、「ここだけなら詳しい」
という小項目担当でもぜひお願いします。

※狩野自身は記事を書くことよりも先生方のエネ
ルギーに期待し、声かけと総元締め（編集）の役
目に徹したいので、皆様のお力を生徒たちの学習
活動に還元し、関わった先生方全員の実績として、
皆さんの将来のキャリアに役立つものにしたいの
で、なにとぞ、お力添えお願いいたします。

次ページ以降に地区別執筆例を挙げます。
こんな感じでお願いします。

越ヶ谷 テーマ:越谷駅東口から元荒川のほとりへ



コース例:①越谷駅東口—②市役所—③瓦曽根溜井—④香取神社—⑤元荒川—⑥久伊豆神社
—⑦逆川—⑧越谷御殿あと・葛西用水—⑨大沢橋と越谷宿—⑩北越谷駅西口

コース例の見どころ:

①越谷駅東口

1920年開業。1899年東武線開通当初越谷駅は大澤に開設されていた。宿場南側の陳情で建設された。

②越谷市役所

元荒川をせき止めた瓦曽根溜井の水面を埋め立て庁舎が建設された。アメダス観測点があり日本一の高温を記録した年もあった。

③瓦曽根溜井

利根川から引水した葛西用水の貯水池。都市化で用水機能は低下したが都市の水辺公園となっている。

④香取神社

元荒川の自然堤防由来の河畔砂丘上にある。後背湿地との比高が瓦曽根溜井水面より高く砂丘と言える。

⑤元荒川

江戸時代初頭の瀬替えによって県東部の農業用水、水運路となった。この下流、吉川市で古利根川と合流し中川となり東京湾へ注ぐ。

⑥久伊豆神社

元荒川沿川のみに立地する神社の総社。氷川神社の系統と言われている。西側に旧河道地形がみられる。

⑦逆川

古利根堰松伏溜井と瓦曽根溜井を結ぶ葛西用水の一部。伏越で水位調整のため北流するとき逆流する。

⑧越谷御殿跡・葛西用水

日光街道越谷宿が設定された江戸時代初期鷹狩の陣屋として用水に面し設営。葛西用水は見沼代用水から分派し中川低地の農業用水として反復利用される。

⑨大沢橋と越谷宿

越谷宿は元荒川の渡津、河岸集落でもあり、大沢橋の南北に宿場が伸びる。北が大沢、南が越谷。

⑩北越谷駅西口

越谷駅として開業。のち武州大澤、1956年北越谷駅となる。宮内庁鴨場へ行く皇族の貴賓室があった。

サンプル テーマ：浦和駅西口から埼玉の中心をめぐる



地理院地図を用いてますが、うまい縮尺の入れ方があれば
今昔マップだと縮尺が入ると思うのですが…

コース例：①浦和駅西口—②旧中山道—③裏門通り—④常盤公園—⑤さいたま市役所
—⑥水道取水井戸—⑦別所沼公園—⑧県庁・裁判所—⑨調神社—⑩浦和駅東口

見どころ：①浦和駅

まず集合地点で目に入る景色を説明します
例：交通路・歴史的施設・地形景観

②旧中山道

目的地を設定するとしたらその地区や
地域の成り立ちがわかる場所
例：特徴的な地形・地域発展に資した産業等

③裏門通り

すこしマニアックな「街歩き」的なテーマ

④常盤公園

現在の地域の人々の生活の場の紹介も
地理的な背景も紹介

⑤さいたま市役所

地域を特徴づける施設や景観を解説する
コース取りの主になるテーマ
このコースで一番見せたい施設や景観

⑥水道取水井戸

一番見せたいものに関連する施設景観も

⑦別所沼公園

コースの途中で休憩できる場所があれば
組み込みたい
できれば地理的な特徴を説明できるような

⑧県庁・裁判所

同僚・生徒を案内するうえで案内者が気づか
せたいことが明瞭な見学地点もあればよい
アクティブラーニングの本家はこちらである

⑨調神社

巡検をすることによって同僚・生徒が地域の
特徴を認識し望ましい地域の在り方に心を
馳せることができるような巡検コースを設定

⑩浦和駅東口

コース内で分担して下調べをし順々に
説明して地域の特性をまとめ地誌を書くことは
ジグソー法に似ている

秩父 ミニ巡検

①矢尾百貨店…矢尾百貨店は近江商人が始めた醸造業が起源で、現在は別の場所で酒造を営んでいる。段丘面から段丘崖にかけて店舗が立地しており、崖下の湧水により醸造を行っていた。当日は百貨店が休業のため、駐車場にある旧酒蔵を脇の通りから見学した。

②今宮神社…河岸段丘の様子と土地利用を見学。「今宮神社」では河岸段丘崖下の湧水を見ることができた。

③本町通りの様子…本町通りは道の拡幅がところどころ行われており、それにともなってリフォームがなされた商店が目だっている。4年前に訪れた時よりもさらに拡幅がすすみ、電柱の地中化が進んでいる様子がうかがえた。

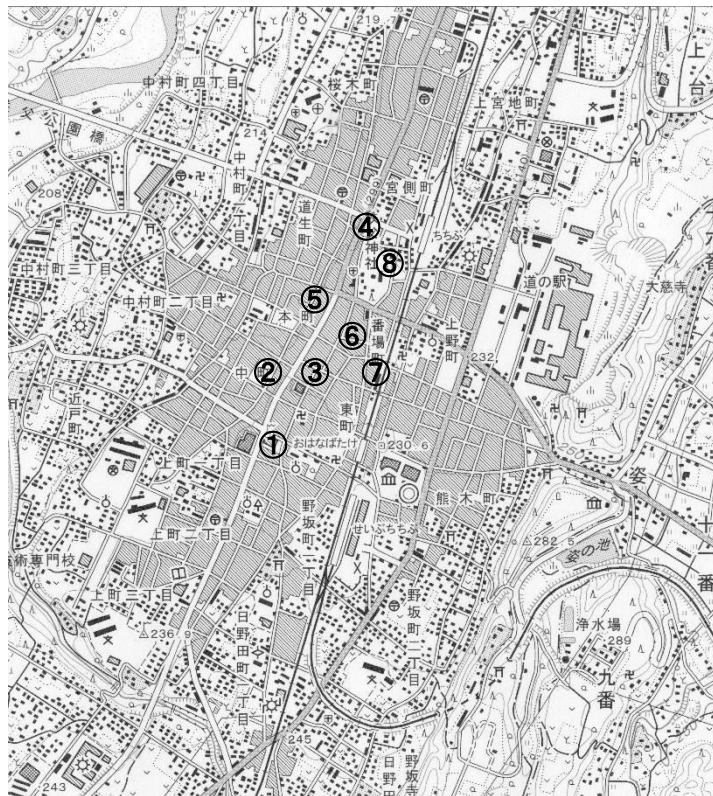
④下平（もとひら）通り…本町通りの一段下に位置する通りで、麻屋酒店（戦前までは造り酒屋であった。現在は販売のみ。）、沼尾豆腐店、寺内織物、たから湯（銭湯）、武甲酒造などが立地している。いずれも湧水を利用した立地となっており、造り酒屋は矢尾百貨店と同様、段丘面から段丘崖

にかけての立地である。沼尾豆腐店の店主にたまたま話を伺うことができたが、現在でも井戸水を利用して豆腐を製造しているそうである。

⑤花街跡…下平通りから西に行った一角に花街跡がある。かつて秩父地方では養蚕が盛んにおこなわれ、秩父銘仙が生産されていた。買い継ぎ商人を接待するために花街が形成されたようである。付近の伏見稲荷神社には、寄進者として、「秩父町藝妓組合」「秩父町料理店組合」の名が確認できる。

⑥買い継ぎ通り～番場通り（⑦）…本町通りと番場通り（秩父神社の表参道）の間に買い継ぎ商どおりがある。古い町並みが現在でも残っており、12月3日の夜祭の際にはイベントも行われている。番場通りは商店街が休みということもあり、人通りはあまり見られなかった。通りのあちこちに『心が叫びたがってるんだ。』のポスターが貼っており、観光客誘致に懸命の様子が見てとれた。

⑧秩父神社…4年前に訪れた時には、境内に多数の「あの花」（『あの日見た花の名前を僕たちはまだ知らない。』）絵馬が見られたが、ブームは去ったのか、今回は一つも見ることができなかった。



「この地図は、国土地理院発行の2万5000分の1地形図(秩父)を使用したものである。」

コース概要： ①矢尾百貨店—②今宮神社・湧水—③本町通り—④下平通り—⑤花街跡—
⑥買い継ぎ通—⑦番場通り・秩父神社表参道—⑧秩父神社

昨年に引き続き授業公開を行った。若手の先生方の参加が多く、ベテラン教員による授業ヒント、アドバイス等があり大変意義深いものであった。

（文責 埼玉県立秩父農工科学高等学校定時制課程 竹田浩一郎）